

令和2(2020)年度社会福祉法人あかつき福祉会

事業報告書

社会福祉法人あかつき福祉会

あかつき福祉会の1年 - 令和2(2020)年度 -

2020年7月



大阪府福祉サービス第三者評価受審

8月



ボランティアコンサート〈ささゆり園〉



箕面市指定ごみ袋製造作業
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉

10月



乗馬体験 〈ささゆり園〉



緑化作業実習
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉



法人広報誌「あかつきだより」
第1号発行

11月



せいなん幼稚園の皆さんと芋掘り
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉



ベランダ農園の収穫
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉

12月



箕面幼稚園の皆さんへプレゼント
(クリスマスカード) 〈ささゆり園〉



創作活動(刺繍)〈わんすてっぷ〉

2021年1月



手作り神社で初詣
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉



友近890オンラインコンサート
〈あかつき園・ワークセンターささゆり〉

2月



節分イベント 〈ささゆり園〉



グループホーム避難訓練
〈支援センター〉

3月



「地域で生きる」障害者問題市民
講座 〈ささゆり園〉

1. 令和2(2020)年度全体概要報告

(1) 地域・他団体交流の促進

【法人本部(総務課)】

令和2年10月より、広報誌「あかつきだより」の発行を開始した。3カ月に1回発行し、利用者・家族、関係団体のほか、近隣の約30自治会にも回覧をお願いして、約500部/回(令和2年度末時点)の配布を行った。

(2) 大阪府福祉サービス第三者評価の受審

【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

【箕面市立障害者福祉センターささゆり園】

大阪府福祉サービス第三者評価を、7月にささゆり園で、8月にあかつき園・ワークセンターささゆりで受審した。その結果は10月にWAMNETにて公表された。

2施設のいずれかにおいて「b」または「c」評価であった計33項目のうち、7項目については令和2年度中に改善の取り組みを計画・実行した。

(3) 製袋事業の安定運営

【箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり】

箕面市指定ごみ袋の製造作業は、作業工程が大きく変更となったことに伴い、作業環境等の見直しも行って対応したが、1箱の製造に要する時間が大幅に増えた。

また、その他課題等の改善に向けて、箕面市との継続的な協議、シェア事業者との調整、生産業者との調整を行いながら、対応を図った。

(4) 介護給付費収入の安定的確保

【箕面市立障害者福祉センターささゆり園】

生活介護事業の利用者数は前年度比で増減なく23名で継続した。また、コロナ禍の影響により1名が年間を通して自主休所したが、臨時的支援を実施したことや他利用者の利用率が比較的安定していたことから、平均利用率は前年度比で5.6%増加した。

(5) 日中サービス支援型共同生活援助事業への移行

【地域生活総合支援センター】

入居者の高齢化への対応とグループホームの安定運営を図るため、第5・6つながりの家を、令和2年4月1日より日中サービス支援型共同生活援助事業へ事業移行を行った。

【令和2(2020)年度実施事業等】

1. 法人本部(総務課)
2. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり <指定管理>
【実施事業】 ①生活介護事業 定員 70名
②就労継続支援B型事業 定員 10名
3. わんすてっぷ
【実施事業】 生活介護事業 定員 15名
4. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園 <指定管理(④を除く)>
【実施事業】 ①園管理運営事業
②生活介護事業 定員 20名
③施設入浴サービス事業
④社会福祉増進事業
5. 地域生活総合支援センター
【実施事業】 ①共同生活援助事業
(第2つながりの家)
②日中サービス支援型共同生活援助事業
・短期入所事業
(第11つながりの家)
③居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業
(ヘルパーステーション「ウイズ」)
④相談支援事業
(ウイズ)

2. 法人本部（総務課）

(1) 概要

- 法人全体では4,841,933円の収支差額を確保することが出来た。
- 現長期計画は令和2年度で最終年度であったため、令和2年度の最終理事会（令和3年3月）において、現長期計画に関する総括を行った。
- 10月より四半期ごとに法人広報誌「あかつきだより」を発行し、利用者・家族、関係団体や近隣の30自治会へ約500部を配布・回覧するようにした。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	収支状況の改善	<ul style="list-style-type: none">○令和2年度は「箕面市指定ごみ袋」製造事業に関する箕面市との契約費用が見直されたことに伴い、年度当初より大幅な赤字（▲約1,800万円）を見込んでいた。そのため、毎月の収支状況を確認しながら、その他の事業で収入増・支出減（特に支出減）に取り組んできた。○ささゆり園においては、利用者の利用状況が比較的安定していたこと、コロナ禍に伴う臨時的支援を実施したことなどから、前年度比で「平均利用率」が5.6%増、「収入」が約800万円増となるなど、例年のない収入増の状況があった。○コロナ禍において、グループホームでは利用者1名・職員3名の感染者が出たが、通所事業所では感染者が出ることなく、年間を通して通常営業を行うことが出来た。○これら状況の結果、「箕面市指定ごみ袋」製造事業にかかる赤字は、当初の見込みどおり▲約1,800万円となったが、法人全体では4,841,933円の収支差額を確保することが出来た。
2	自主事業拡大に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none">○不動産会社や関係機関から物件情報を収集、約10件の見学・内覧も行ったが、条件等などが合わず、物件の確保までには至らなかった。
3	長期計画の実行	<ul style="list-style-type: none">○四半期ごとに長期計画プロジェクト会議を開催して、計画の進捗管理を行った。○現長期計画は令和2年度で最終年度であったため、令和2年度の最終理事会（令和3年3月）において、現長期計画に関する総括を行った。
4	大阪府の第三者評価受審	<ul style="list-style-type: none">○大阪府福祉サービス第三者評価を、7月にささゆり園で、8月にあかつき園・ワークセンターささゆりで受審した。その結果は10月にWAMNETにて公表された。○2施設のいずれかにおいて「b評価」または「c評価」であった計33項目のうち、7項目については令和2年度中に改善の取り組みを計画・実行した。
5	地域・他団体交流の促進	<ul style="list-style-type: none">○コロナ禍のため、納涼祭は中止、例年参加している西南ジャンボリー・いきいきふれあい広場も中止となった。○令和2年10月より、広報誌「あかつきだより」の発行を開始した。3カ月に1回発行し、利用者・家族、関係団体のほか、近隣の約30自治会にも回覧をお願いして、約500部/回（令和2年度末時点）の配布を行った。
6	防災・防犯対応の強化	<ul style="list-style-type: none">○消防（避難）訓練を瀬川地区では10月と3月に、ささゆり園では9月と1月に実施した。○救急講習を箕面消防署において8月に2回に分けて実施し、瀬川地区・ささゆり園合わせて16名が受講した。○防犯訓練を瀬川地区・ささゆり園において、10月に箕面警察署の指導のもと職員17名が参加して、令和元年度に実施した訓練の映像を見てポイントを振り返る形式で実施した。○コロナ禍のなかで、原課と情報共有しながら、感染症対策に取り組んだ。

7	職員確保	<p>○ハローワークの求人や合同説明会への出展、インターネット媒体の活用等、継続的に人材募集を行い、正規職員1名、支援職員1名、臨時職員9名を採用（内定含む）した。</p> <p>○2月に厚生労働省の仕事と介護を両立できる職場環境のシンボルマーク「トモニンマーク」を取得した。</p> <p>○3月に経済産業省の「健康経営優良法人2021（大規模法人部門）」の認定を受けた。</p>
8	組織風土改善、人材育成	<p>○全職員を対象に7月に組織風土診断アンケートを実施した。経年比較を行うとともに、最も評価の高かった部門の自己分析結果を法人内で共有した。</p> <p>○大阪府地域福祉推進財団の要請を受け、令和2年11月～令和3年2月にかけて、職員4名を計8日間「大阪府サービス管理者等研修」のファシリテーターとして派遣を行った。</p> <p>○1月より障がい福祉に関するeラーニングを導入し、部門内研修での活用を開始した。</p>
9	虐待防止・サービス向上	<p>○5月に支援マニュアルを改訂し、全職員に配布した。</p> <p>○日頃の支援を客観的に振り返るセルフチェックを2回（8月・2月）実施し、その結果のフィードバックを行った。</p> <p>○虐待防止・サービス委員会を2回（9月・3月）開催し、虐待防止及びサービス向上に向けた取り組みに関する検討を行った。</p> <p>○法人全体で虐待防止をテーマとしたケーススタディ式の人権研修を12月から1月にかけて実施し、計92名が受講した。</p>

(3) 今後について

- 大阪府福祉サービス第三者評価の結果を踏まえ、原課と連携して「b評価」「c評価」評価項目の改善策を検討・実施していく。
- 原課と連携して、指定管理事業・自主事業の収支改善策を検討・実施していく。
- 令和3年度で指定管理期間が終了するあかつき園・ワークセンターささゆりについて、次期指定管理に向けた検討・対応を進めていく

(4) 理事会・評議員会等開催状況

理事会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和 2年 6月 8日 案件 = 令和元(2019)年度決算 など ・第2回 令和 2年10月15日 案件 = 評議員選任・解任委員会の招集及び評議員候補者推薦の件 など ・第3回 令和 3年 3月31日 案件 = 令和3(2021)年度事業計画及び予算 など
評議員会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和 2年 6月25日 案件 = 令和元(2019)年度決算 など ・第2回 令和 2年10月30日 案件 = 役員選任
運営協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回 令和 2年 6月 5日 案件 = 令和元(2019)年度決算 など ・第2回 令和 3年 3月26日 案件 = 令和3(2021)年度事業計画及び予算 など

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

＜就労継続支援B型事業＞

(1) 概要

- 製袋事業は、作業工程が大きく変更となったことに伴い、作業環境等の見直しも行って対応したが、1箱の製造に要する時間が大幅に増えた。また、製袋事業の課題改善に向けて、箕面市との継続的な協議、入札による材料仕入、シェア事業者との調整等を行った。
- 多様な働く機会や社会生活に必要な経験の提供するため、箕面市障害者事業団体験実習を実施し、花壇管理、植物リースに3名が延べ33日間（前年度4名・延べ50日間）が参加した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用率向上、収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため利用者1名が年間で20日以上自主休所したことから、利用率は93.5%（前年度比2.9%減）となった。 ○訓練給付費収入は報酬単価の区分変更により、1,214万円（前年度1,190万円）となり、収支差（就労支援事業を除く）は、46万円（前年度165万円）となった。
2	工賃拡大に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○箕面市指定ごみ袋の製造作業は、作業工程が大きく変更となったことに伴い、作業環境等の見直しも行って対応したが、1箱の製造に要する時間が大幅に増えた。 ○製造事業が大幅な赤字となったこともあり、1人あたりの月額工賃平均額は10,117円（前年度13,237円）に止まった。 ○令和3年度からの新たなリサイクル作業の実施に向けて、関係機関と事前協議・調整を行った。
3	虐待防止・再発防止の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に日々の支援を振り返るため、チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に5名の職員が参加し、グループワークを通して虐待防止について考える機会を設けた。
4	製袋事業の安定運営	<ul style="list-style-type: none"> ○令和2年度からの「箕面市指定ごみ袋」仕様変更に伴う、生産にかかる課題を整理し、新たな生産体制等の検討・対応を行った。 ○「箕面市指定ごみ袋」製造事業の課題改善に向けて、箕面市と継続的な協議、入札による材料仕入れ、製造シェア事業所との調整などを行った。
5	多様な働く機会や社会生活に必要な経験の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○箕面市障害者事業団体験実習を実施し、花壇管理、植物リースに4名が延べ33日間（前年度4名・延べ50日間）が参加した。
6	指定管理者アンケート、府社協福祉サービス第三者評価、施設サポートサービス結果を踏まえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため見学・来所者の絞り込みを行い、計4団体、延べ23名の受け入れに止まった（前年度は計8団体、延べ176名）。なお、例年3月に実施している西南小学校からの見学の受け入れは中止したが、代替方法としてZoomを活用したオンライン見学会を実施した。 ○チーム別懇談会は全て中止としたが、ブログ記事を年2回作成・掲載して、家族との情報共有を行った。 ○障害特性に応じた支援を行うため、専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）により、支援の随時改善や職員の資質向上を図った。
7	大阪府の第三者評価受審	<ul style="list-style-type: none"> ○8月にNPO法人かんびの丘による大阪府福祉サービス第三者評価を受審した。生活介護事業と合わせた評価を受け、全62項目のうち最も良い評価である「a 評価」が31項目、「b 評価」が30項目、「c 評価」が1項目という結果であった。利用者サービス面については比較的高い評価を得ることが出来たが、業務マニュアルの整備等に関する課題の指摘を受けた。 ○令和3年1月以降、3年後の再受審に向けて「b 評価」「c 評価」の「a 評価」への引き上げに向けた検討・取り組みを始めた。
8	職員育成	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修はコロナ禍の影響で多くが中止となったため、参加が出来なかった。 ○部門内研修会を年5回実施して、職員の支援スキル向上を図った。

(3) 今後について

- 製袋事業の収支改善の取り組み、安定供給に向けたシェア事業所との調整など、製袋事業の安定的な運営を図っていく。
- 工賃拡大に向けて新たな作業種の開拓を行っていく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和元年度	令和2年度
箕面市指定ごみ袋の生産	101,969,632円	92,998,505円
館内清掃	100,000円	100,000円
計	102,969,632円	93,098,505円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃額（特別工賃を含んで換算）

	令和元年度	令和2年度	前年度比
就労継続支援B型	13,237円	10,117円	76.4%

②施設外支援

実習先	参加人数（実数）	参加延べ日数	職種
箕面市障害者事業団	4名	33日	緑化部門（花壇管理等）

③その他の活動

- 健康活動（ラジオ体操、ウォーキング、ダンス等）
- 創作活動（ペーパークラフト、手芸等）
- 社会活動（地域清掃等）

(5) 在籍者状況（令和3年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和2年度	8名	30.1歳	12.1年	93.5%	7.4名
令和元年度	8名	29.1歳	11.1年	96.4%	7.7名

令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	0名	5名	3名	0名	0名

3. 箕面市立あかつき園・ワークセンターささゆり

<生活介護事業>

(1) 概要

- 8月に大阪府福祉サービス第三者評価を受審し、全62項目のうち最も良い評価である「a評価」が31項目、「b評価」が30項目、「c評価」が1項目という結果であった。利用者サービス面については比較的高い評価を得ることが出来たが、業務マニュアルの整備等に関する課題の指摘を受けた。
- 喀痰吸引等研修を職員3名が新たに受講し、利用者2名に対して3行為の医療的ケアが実施できるようになった。これにより喀痰吸引等を実施できる生活支援員は10名（前年度7名）となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用率向上、収入増に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○新規利用者は2名、移行等による途中退所が3名であった。 ○コロナ禍のため利用者15名が年間で20日以上自主休所したが、臨時的支援も実施した結果、平均利用率は90.1%（前年度比0.3%減）に止まった。 ○介護給付費収入は2億132万円（前年度1億9,898万円）、収支差（就労支援事業を除く）は668万円（前年度▲242万円）となった。
2	効率的な送迎サービスの検討	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者間の相性等に配慮して個別送迎をしていた利用者について、送迎ルートの見直しや乗車する送迎車の割り振りなどにより、通常送迎の利用に繋げることができた。
3	工賃拡大に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍により近隣バザーの中止が相次ぎ、販路が減少した結果、さをり製品の売上は3.8万円（前年度比77%減）となった。
4	虐待防止・再発防止の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○継続的に日々の支援を振り返るため、チェックリストに基づく虐待防止セルフチェックを8月と2月に実施した。 ○12月～1月に法人全体で開催した人権研修に37名の職員が参加し、グループワークを通して虐待防止について考える機会を設けた。
5	指定管理者アンケート、府社協福祉サービス第三者評価、大阪社福士会施設サポートサービス結果を踏まえた対応	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため見学・来所者の絞り込みを行い、計4団体、延べ23名の受け入れに止まった（前年度は計8団体、延べ176名）。なお、例年3月に実施している西南小学校からの見学の受け入れは中止したが、代替方法としてZoomを活用したオンライン見学会を実施した。 ○チーム別懇談会は全て中止とした。代替方法として、ブログ記事を計21回作成・掲載して、家族との情報共有を行った。 ○障害特性に応じた支援を行うため、専門家の助言・指導（作業療法士2回/月、臨床発達心理士1回/月、嘱託医1回/月）により、支援の随時改善や職員の資質向上を図った。
6	介護技術の標準化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○「利用者支援概要シート」（個別支援計画に基づく支援の要点など）や支援マニュアルの作成・更新を行うとともに、利用者の状況変化や支援の変更を職員間で共有した。
7	医療的ケアへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ○看護師を中心に医療的ケアの実施について情報共有を行い、安全な支援に努めた。 ○喀痰吸引等研修を職員3名が受講し、利用者2名に対して3行為の医療的ケアが実施できるようになった。これにより喀痰吸引等を実施できる生活支援員は10名（前年度7名）となった。
8	大阪府の第三者評価受審	<ul style="list-style-type: none"> ○8月にNPO法人かんなびの丘による大阪府福祉サービス第三者評価を受審した。就労継続支援B型事業と合わせた評価を受け、全62項目のうち最も良い評価である「a評価」が31項目、「b評価」が30項目、「c評価」が1項目という結果であった。利用者サービス面については比較的高い評価を得ることが出来たが、業務マニュアルの整備等に関する課題の指摘を受けた。 ○令和3年1月以降、3年後の再受審に向けて「b評価」「c評価」の「a評価」への引き上げに向けた検討・取り組みを始めた。
9	職員確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ○外部研修はコロナ禍の影響で多くが中止となったが、オンライン含め開催された研修の7講座、述べ12名が参加した。 ○部門内研修会を年15回実施して、職員の支援スキル向上を図った。

(3) 今後について

- 新型コロナウイルス感染防止策の強化とともに、臨時的支援の継続実施など、コロナ禍での支援のあり方を検討・実施していく。
- 実地指導を含めた研修会や実地指導を受けての改善策の実施など、施設の感染症対策を強化していく。
- 医療的ケアが実施できる職員をさらに拡大して、医療的ケアへの対応力を強化していく。

(4) 主な活動内容

①生産活動

ア) 主な生産活動内容及び収入

	令和元年度	令和2年度
箕面市指定ごみ袋の生産	3,360,000円	1,440,000円
農園芸	625,355円	398,731円
さをり製品の生産・販売	169,655円	38,840円
指編み製品の生産・販売	25,700円	4,000円
ペットボトル、アルミ缶リサイクル等	117,397円	82,346円
館内清掃	400,000円	400,000円
計	4,698,107円	2,363,917円

イ) 利用者1人あたりの月額平均工賃

令和元年度	令和2年度	対前年度比
2,728円	563円	20.6%

②その他の活動

- 健康活動（機能維持訓練、ダンス、プール、ウォーキング等）
- 日常生活・社会適応訓練（外出を伴うものは実施なし）
- 創作活動（書道、手芸、季節の壁面飾り等）
- 文化活動（音楽療法、音楽活動、音楽・DVD鑑賞、紙芝居等）
- 社会活動（古切手の切り取り等）

(5) 在籍者状況（令和3年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数
令和2年度	66名	31.1歳	12.4年	90.1%	61.4名
令和元年度	67名	30.2歳	11.5年	90.4%	61.8名

令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	35名	21名	10名	0名	0名	0名

4. わんすてっぷ<生活介護事業>

(1) 概要

- 利用者の平均年齢が54.4歳と徐々に高齢化が進むなかではあるが、入院や家庭環境の変化等に対応しながら支援を行った。
- 介護給付費収入は3,226万円（前年度比26万円増）、収支差は578万円（前年度比75万円増）となった。
- 自主事業割合の拡大に向けた検討を進め、不動産会社や関係機関から物件情報を収集等を行ったが、物件の確保までには至らなかった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	再整備計画の立案	○自主事業割合の拡大に向けた検討を進め、不動産会社や関係機関から物件情報を収集等を行ったが、物件の確保までには至らなかった。
2	収支状況の改善	○利用者の平均年齢が54.4歳と徐々に高齢化が進むなかではあるが、入院や家庭環境の変化等に対応しながら支援を行った。 ○結果として介護給付費収入は3,226万円（前年度比26万円増）、収支差は578万円（前年度比75万円増）となった。
3	個別支援計画に基づく支援の実施	○介護の度合いが増した利用者の実態を踏まえて、支援要点を明らかにした計画を作成し、支援を実施した。
4	適切なサービス提供	○健康診断(年1回)や体重測定(月1回)、作業療法士相談(月1回)、看護師による健康確認・衛生管理(月1回)を実施した。 ○状態の変化の大きい利用者に対し、障害特性も踏まえて、複数職員で対応する等の支援を実施した。 ○ヒヤリハットを職員間で共有し安全管理を図るとともに、介護の度合いが増した利用者に対するサービス提供体制を整え、利用者の障害の状況に合わせた支援に努めた。 ○新型コロナウイルスへの対応として、施設内の消毒、アクリル板の設置、施設の換気等を行った。
5	サービス等利用計画作成事業者（介護保険事業者含む）との連携	○事業者と情報提供や意見交換を図った。（グループホームの不安定な利用、独居形態からグループホームへの変更、排泄支援の方法など）
6	職員確保・育成	○生活支援員の欠員が継続したため、必要に応じ他部署より応援職員を配置して対応した。

(3) 今後について

- 新型コロナウイルス感染防止策の強化とともに、臨時的支援の継続実施など、コロナ禍での支援のあり方を検討・実施していく。
- 自主事業として利用者・利用率拡大を図るとともに、今後の事業のあり方を検討・実施していく。

(4) 主な活動内容

- ①創作活動（手芸、折り紙、塗り絵、絵画等）
- ②文化活動（音楽鑑賞、ビデオ鑑賞、カラオケ、Wii、オセロ等）
- ③健康活動（健康診断、体重測定、ストレッチ、ウォーキング、筋力トレーニング、健康観察、血圧・脈拍測定等）
- ④心身を整えるための活動（足浴、爪切り、リラックス等）
- ⑤専門職による相談・指導
（作業療法士・嘱託医への相談、看護師による足爪切り、ダンス指導等）
- ⑥イベントに替わる茶話会

(5) 在籍者状況（令和3年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和2年度	14名	54.4歳	16.7年	73.1%	10.9名	
令和元年度	14名	53.4歳	15.7年	74.6%	11.2名	
令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	2名	7名	4名	1名	0名	0名

(1) 概要

- 令和3年3月、「わかりやすく学ぶ成年後見制度（ミニセミナー&寸劇）」と題し、一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター大阪府支部から講師を招いての講演会「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。
- 箕面市・箕面市社会福祉協議会との共催事業である「要約筆記講習会」は、コロナ禍を受けて中止としたが、箕面市・箕面市社会福祉協議会と一緒に要約筆記を紹介するリーフレットを新たに作成した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	既存8事業見直し協議・対応	○ささゆり園内部の協議に留まり、箕面市との具体的な協議までには至らなかった
2	施設利用基準のあり方を検討・協議	○多様な目的での施設利用が増えているため、利用を許可する要件である「福祉活動への利益供与」の基準について箕面市に確認を行ったが、明確な基準はないため引き続きの検討課題となった。
3	園庭の有効活用方法の検討・実施	○ウッドデッキの設置や駐車場の整備など、園庭の有効活用方法について箕面市と協議を行った。
4	障害者等の理解促進に係る啓発事業の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○令和3年3月、「わかりやすく学ぶ成年後見制度（ミニセミナー&寸劇）」と題し、一般社団法人コスモス成年後見サポートセンター大阪府支部から講師を招いて「地域で生きる障害者問題市民講座」を開催した。 ○コロナ禍のため、例年実施している箕面保育園との餅つき会は中止となったが、クリスマスカードを作成し、園児の皆さんにプレゼントをすることで交流を継続した（後に園児の皆さんよりプレゼントのお返しがあった）。 ○箕面市・箕面市社会福祉協議会との共催事業である「要約筆記講習会」は、コロナ禍を受けて中止としたが、箕面市・箕面市社会福祉協議会と一緒に要約筆記を紹介するリーフレットを新たに作成した。

(3) 今後について

- 各種講習会、地域交流、障害者に関する啓発事業等を継続的に実施していく。
- 駐車場の整備など、箕面市との協議を継続的に行っていく。

(4) ささゆり園利用状況

	令和元年度	令和2年度	対前年度比
開館日数	315日	321日	101.9%
利用件数	1,623件	1,212件	74.7%
利用件数/日	5.2件	3.8件	73.1%
利用者数	23,368名	13,516名	57.8%
利用者数/件	14.4名	11.2名	77.8%
利用者数/日	74.2名	42.1名	56.7%

事業名	令和元年度		令和2年度		対前年度比 (人数比)	
	件数	人数	件数	人数		
障害者社会参加促進事業	35	269	35	212	78.8%	
[内訳]	①茶道教室	18	145	18	100	69.0%
	②華道教室	17	124	17	112	90.3%
ボランティア育成事業	55	752	49	486	64.6%	
[内訳]	①手話講習会「入門・基礎課程」	32	418	38	412	98.6%
	②音訳講習会<令和2年度：初級>	9	75	11	74	98.7%
	③要約筆記講習会	14	259	0	0	-
啓発事業（障害者問題市民講座）	0	0	1	30	-	
貸館事業	1,533	22,347	1,127	12,788	57.2%	
[内訳]	①障害者団体	739	13,786	518	6,901	50.1%
	②ボランティアサークル	435	4,624	333	3,165	68.4%
	③外郭・行政関係	159	2,656	144	1,802	67.8%
	④その他	169	1,250	121	909	72.7%
	⑤IT室	31	31	11	11	35.5%
合計	1,623	23,368	1,212	13,516	57.8%	

※会議室等使用団体数(令和3年3月31日現在)

- ・定期利用団体：39団体（対前年度比 ±0）
- ・随時利用団体：19団体（対前年度比 1増）
- 【合計】 58団体（対前年度比 1増）

5. 箕面市立障害者福祉センターささゆり園<生活介護事業>

(1) 概要

- コロナ禍のため宿泊旅行は中止したが、代わりに園外活動を10グループに分けて実施した。
- 喀痰吸引研修（実地研修）を4月、10月の2回に分けて実施した。利用者8名に対して4行為の医療的ケアが実施できるようになった。
- 利用者数は前年度比で増減なく23名で継続した。コロナ禍の影響により1名が年間を通して自主休所したが、臨時的支援を実施したことや他利用者の利用率が比較的安定していたことから、平均利用率は前年度比で5.6%増加した。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	介護給付費収入の安定的確保	<ul style="list-style-type: none"> ○利用者数は前年度比で増減なく23名で継続した。コロナ禍の影響により1名が年間を通して自主休所したが、臨時的支援を実施したことや他利用者の利用率が比較的安定していたことから、平均利用率は前年度比で5.6%増加した。 ○介護給付費収入は7,867万円（前年度7,066万円）となり、収支差は1,399万円（前年度240万円）となった。
2	延長支援の実施	○引き続き、個別支援計画に基づき生活介護の延長支援を男性5名、女性1名について実施した。また、延長支援の時間を活用し、嚥下機能トレーニング等も実施した。
3	多様な活動支援の検討・実施	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍のため、当初予定していた宿泊旅行は中止とした。 ○代わりに、令和2年10～11月にかけて乗馬体験のほか、みのおキューズモール、万博リビングパーク、宝塚北サービスエリア散策など、屋外中心の園外活動を10グループに分けて実施した。
4	入浴支援体制の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ○日中活動に重点を置き入浴サービス開始時間等を随時調整した。 ○年々増加傾向にある入浴希望者に対して、他の社会資源（ホームヘルパー、訪問入浴）の情報提供等も行った。
5	介護職による喀痰吸引等の実施	<ul style="list-style-type: none"> ○新規職員を含めてより多くの利用者に医療的ケアを実施するため、喀痰吸引研修（実地研修）を4月、10月の2回に分けて実施した。職員13名が受講し、利用者8名に対して4行為の医療的ケアが実施できるようになった。 ○上記研修実施により、生活支援員等の職員17名全員が喀痰吸引等を実施できる体制となった。
6	重度重複障害者の地域生活に係る調査研究	○医療型短期入所を実施している医療機関を訪問し、情報収集・意見交換を行った。
7	医療的ケアの必要な利用者の地域生活支援検討	○医療型短期入所を実施している医療機関の情報を家族交流会でも提供した結果、1件の利用登録に繋がった。
8	指定管理者アンケート結果を踏まえた対応	○アンケート結果を踏まえて利用者家族との定期的な交流会（年3回）を行うとともに、欠席者には報告資料を配布した。
9	大阪府の第三者評価受審	<ul style="list-style-type: none"> ○7月にNPO法人かなびの丘による大阪府福祉サービス第三者評価を受審した。 ○全60項目のうち最も良い評価である「a」評価が29項目、「b」評価が31項目という結果で、利用者サービス面については比較的高い評価を得ることが出来たが、業務マニュアルの整備等に関する課題の指摘を受けた。
9	感染症対策	○新型コロナウイルス感染防止のため、例年実施している感染症防止研修会・感染制御ラウンドは実施できなかったが、感染防止の取り組みを徹底、年間を通して営業を行うことが出来た。
10	職員確保	○看護師の育児休暇の取得があったが、派遣職員等の活用により、看護師2名体制を維持した。
11	介護技術の標準化への対応	○利用者個別の支援マニュアル（基礎情報、入浴手順等）の更新や相談記録等様式の統一化を図り、情報共有に努めた。

12	腰痛予防対策	○朝礼後の体操の徹底、移動式リフト・スライディングシート等の活用により腰痛予防対策を行った。
13	地域への情報発信、交流	○ブログの更新を年間で計18回行った。 ○感染対策を徹底しながら、音楽ボランティアによる演奏会を8月に開催した。

(3) 今後について

- 新型コロナウイルス感染防止策の強化とともに、臨時的支援の継続実施など、コロナ禍での支援のあり方を検討・実施していく。
- 感染制御ラウンド（実地研修）及び感染症防止研修会などの取り組みを継続し、感染症対策を強化していく。
- 未修了の介護職に対し喀痰吸引等研修を実施し、介護職全員が医療的ケアを実施できる体制を継続していく。

(4) 主な活動内容

- ①健康活動（エクササイズ、足浴、日光浴、エアマット、ハンモック、スノーズレン等）
- ②創作活動（さをり織り、組み紐、季節毎の展示物作成等）
- ③文化活動（楽器演奏、カラオケ、ボウリング、ボッチャ、農園活動等）
- ④園外活動（個別外出、散歩、乗馬、清掃活動等）
- ⑤作業活動（空き缶つぶし等）
- ⑥イベント（男女別イベント、年度末イベント等）

(5) 医療的ケアの実施状況（令和2年度利用対象者13名）

内 容		人数	内 容		人数
たんの吸引	口腔内	9名	吸入		1名
	鼻腔内	7名	ブジー		1名
	気管カニューレ内部	6名	酸素投与(緊急時含む)		1名
経管栄養	胃ろう	5名	人工呼吸器管理		2名
	腸ろう	2名	浣腸(摘便)		1名
	経鼻胃管	2名	カフアシスト		1名
経管による与薬	胃ろう	2名			
	腸ろう	1名			
	経鼻胃管	2名			
			合 計 (延べ人数)		43名

(6) 在籍者状況（令和3年3月31日現在）

	在籍者数	平均年齢	平均在籍年数	平均利用率	平均利用人数	
令和2年度	23名	42.3歳	10.6年	90.6%	17.5名	
令和元年度	23名	43.2歳	10.0年	85.0%	16.0名	
令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	20名	3名	0名	0名	0名	0名

(1) 概要

- 利用契約者数は11名で年間を通して変動はなかった。コロナ禍等による利用控えもあり、平均利用者数/日は2.4名（前年度2.7名）となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	事業の方向性を協議	○入浴設備も介護リフトや普通浴槽など設備の老朽化が進んでおり、更新の必要性について検討した。
2	新規利用者の募集、確保	○利用契約者数は11名で年間を通して変動はなかった。コロナ禍等による利用控えもあり、平均利用者数/日は2.4名（前年度2.7名）となった。 ○在宅での入浴支援（ヘルパー利用、移動入浴等）の利用を勧める対応を行った。
3	職員確保	○入浴ヘルパーは男性2名、女性1名を確保した。 ○当該入浴ヘルパーだけで対応できない時は、生活介護事業の職員で対応した。

(3) 今後について

- 入浴設備の点検を行うとともに、箕面市と協議しながら必要に応じて設備の更新を行っていく。
- 入浴サービスの利用方法・利用基準等について検討・整理を行っていく。

(4) 施設入浴サービス利用状況

	令和元年度	令和2年度	対前年度比
実施日数	240日	243日	101.3%
利用者数	636名	589名	92.6%
利用者数/日	2.7名	2.4名	88.9%

(1) 概要

- 大阪府登録喀痰吸引等研修機関として、実地研修及び修了申請事務を実施した。
- 令和2年度の修了者数は、延べ47名（全員が当福社会職員）であった。

6. 地域生活総合支援センター

＜共同生活援助事業・日中サービス支援型共同生活援助事業・短期入所事業＞

(1) 概要

- 入居者の高齢化への対応とGHの安定運営を図るため、第5・6つながりの家を、令和2年4月1日より日中サービス支援型共同生活援助事業へ事業移行を行った。
- 入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図るため、GHに訪問診療・歯科・リハビリを4名、延べ7件導入した（前年度1名、延べ1件）。
- コロナ禍の影響により多くの利用自粛があったが、臨時的支援を実施し、利用者の状況把握と報酬算定に繋げた（8名、延べ255日）。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	利用率向上に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍の影響により多くの利用自粛があったが、臨時的支援を実施し、利用者の状況把握と報酬算定に繋げた（8名、延べ255日）。 ○365日運営を行っていない4つのGHにおいて祝前日運営を計6日間行い、延べ71名が利用した。 ○長期連休にGH利用を勧めたことで、5月連休や年末年始における1日あたりの平均利用者数は11.9名（前年度比1.2名増）となった。 ○第3つながりの家の欠員補充に向けて、3名の体験入居を実施し、うち1名が本入居となった。 ○別の入居者1名が高齢化・重度化に伴って介護保険施設へ移行したこと、コロナ禍が継続するなかで新たな体験入居が実施出来なかったことなどから、令和2年度末時点でも2名の欠員状況となった。 ○訓練給付費収入は9,486万円（前年度9,210万円）となり、収支差は▲1,417万円（前年度▲690万円）となった。
2	GH整備計画の検討	<ul style="list-style-type: none"> ○入居者の高齢化への対応とGHの安定運営を図るため、第5・6つながりの家を、令和2年4月1日より日中サービス支援型共同生活援助事業へ事業移行を行った。 ○各ホームの集約化については検討し物件探しを行ったが、適当な物件の取得には至らなかった。
3	入居者の高齢化・重度化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ○入居者の高齢化・重度化による通院負担の軽減や緊急時の医療連携強化を図るため、グループホームで「訪問診療」「訪問歯科」「訪問リハビリ」を4名、延べ7件実施した（前年度1名、延べ1件）。 ○入居者1名が高齢化や重度化に伴い、介護保険施設へ移行した。
4	余暇支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ○余暇活動計画や個別支援計画に基づき、GH利用者に対する移動支援を年間で273件、940時間（前年度296件、1,535時間）実施した。コロナ禍のため、外出時間の短縮を行ったことで前年度よりも時間数は大幅に減少した。 ○コロナ禍により、休日運営を伴うGH行事は全て中止した。
5	日中サービス支援型共同生活援助事業への事業移行	<ul style="list-style-type: none"> ○入居者の高齢化への対応とGHの安定運営を図るため、第5・6つながりの家を、令和2年4月1日より日中サービス支援型共同生活援助事業へ事業移行を行った。 ○急病や通院等による平日日中のGH利用者は延べ63名であった。 ○併設の短期入所において利用者1名、延べ43名の利用があった。
6	職員確保・育成	<ul style="list-style-type: none"> ○登録ヘルパー3名、派遣職員3名を新たに確保し、うち1名が直接雇用に繋がった。 ○コロナ禍により、世話人全員集まって研修を行うことは困難であったため、インターネットを活用してeラーニングによる研修を導入・実施した。

7	サビ管と世話人の連携強化	○前年度に続き、サービス管理責任者の月1回以上のGH訪問や電話やメールでの連絡を継続的に実施した。 ○世話人会議をリモートで出来るようWEB会議の環境（WEBカメラ、ヘッドセット）を各GHに整えた。
---	--------------	--

(3) 今後について

- 入居者の高齢化・重度化に対応するため、居宅介護等の利用促進や訪問医等との連携強化を図っていく。
- 既存GHの欠員について入居者の募集を行い、定員を充足させていく。
- GHの集約や再整備について検討・実施していく。

(4) 在籍者状況（令和3年3月31日現在）

①第2つながりの家

	在籍者数	平均年齢	平均利用率	平均利用人数
令和2年度	27名	48.3歳	80.4%	22.5人
令和元年度	27名	47.4歳	79.0%	21.3人

令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	5名	6名	7名	7名	2名	0名

②第11つながりの家

	在籍者数	平均年齢	平均利用率	平均利用人数
令和2年度	7名	52.6歳	97.8%	6.9人
令和元年度	7名	51.6歳	95.1%	6.7人

令和2年度利用者 障害支援区分	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	区分1
	0名	6名	1名	0名	0名	0名

短期入所利用状況	年間延べ利用者数
	43名

6. 地域生活総合支援センター

＜居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援事業＞

(1) 概要

- 居宅介護は、コロナ禍の影響で複数利用者の利用自粛があり、GHにおける居宅介護の派遣中止などから、年間の提供時間は3,450.5時間（前年度3,602.5時間）となった
- 移動支援は、コロナ禍のため全体的に大幅縮小せざるを得なかったことから、年間の提供時間は1,175時間（前年度2,464時間）、提供回数は360回（前年度468回）となった。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	GHにおける居宅介護・通院等介助の充実	○コロナ禍の影響で複数利用者の利用自粛があり、GHにおける居宅介護の派遣中止などから、年間の提供時間は3,450.5時間（前年度3,602.5時間）となった。 ○通院等介助の契約者は17名で、コロナ禍の影響で年間の提供時間は316.5時間（前年度503.0時間）となった。 ○居宅介護事業全体の介護給付費収入は2,573万円（前年度2,743万円）となったが、人員配置の見直しを行い収支差は921万円（前年度92万円）となった。
2	GHにおける余暇支援の充実（移動支援の拡大）	○コロナ禍のため全体的に大幅縮小せざるを得なかったこともあり、移動支援の提供時間は1,175時間（前年度2,464時間）、提供回数は360回（前年度468回）となった。 ○余暇活動計画や個別支援計画に基づき、GH利用者に対する移動支援を年間で273件、940時間（前年度296件、1,535時間）実施した。コロナ禍のため、外出時間の短縮を行ったことで前年度よりも時間数は大幅に減少した。
3	有資格従事者の確保・育成	○男性3名の有資格ヘルパーを確保した。

(3) 今後について

- GH利用者への余暇支援の充実を図っていく。
- GH利用者のニーズの把握に努め、居宅介護や移動支援の提供時間の増加に繋げていく。

(4) ヘルパー派遣状況 (令和3年3月31日現在)

単位：時間

	居宅介護			身体介護	同行援護
	通院等介助				
	(身体介護なし)	(身体介護あり)	合計		
令和2年度	10.0	306.5	316.5	3,450.5	14.5
令和元年度	13.0	490.0	503.0	3,602.5	246.5

	移動支援		
	I類	II類	合計
	(身体介護なし)	(身体介護あり)	
令和2年度	1,026.5	148.5	1,175.0
令和元年度	1,506.0	958.0	2,464

(1) 概要

- 福祉サービスの利用、健康・医療、家族関係・人間関係に関する相談を含め、1,308件（前年度比167件増）の相談に対応した。
- 福祉サービスの利用のなかった在宅の障害者市民2名への支援の結果、福祉サービスの利用（単身での生活）に繋がった。
- 家族の高齢化・入院等に伴い、家族に代わって関係機関と調整を図るケースは増加傾向にあり、引き続きその対応を行った（継続的には5名）。

(2) 重点項目・課題解決の状況

	計 画	実施結果
1	計画相談支援体制の充実	○福祉サービスの利用、健康・医療、家族関係・人間関係に関する相談を含め、1,308件（前年度比167件増）の相談に対応した。 ○前年度に引き続き、2名（+OJT対応で1名）体制で契約利用者105名に対して継続的な支援を行った。
2	相談支援の質的向上	○多職種連携を必要とするケースへの実践を通じて知識・経験を蓄積し、今後の事例に活かせるように努めた。
3	困難事例への対応	○福祉サービスの利用のなかった在宅の障害者市民2名への支援の結果、福祉サービスの利用（単身での生活）に繋がった。 ○虐待事例（疑いも含む）に関しては、引き続き家族間の様子の確認や日中活動先との情報共有のもと、適度な距離感を持てるようにサービス等の調整を行った。 ○家族の高齢化・入院等に伴い、家族に代わって関係機関と調整を図るケースは増加傾向にあり、引き続きその対応を行った。（継続的には5名）
4	相談支援専門員の確保・育成	○相談支援専門員資格に係る「現任研修」を3名が受講した。今後、増加が見込まれる相談への対応として、前年度に「初任者研修」を受講した職員1名に対してOJTを実施した。

(3) 今後について

- モニタリングのあり方や業務効率化を検討・実施していく。
- 困難事例への対応については、関係機関と連携し多様な観点からの支援策を検討していく。
- 相談支援の利用契約者増を図っていく。

(4) 相談状況 (令和3年3月31日現在)

①相談経路別

単位：件

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
訪問	32	170	172	16	390
来所	0	86	68	0	154
同行	0	28	17	3	48
電話	6	335	303	32	676
電子メール	0	9	1	0	10
個別支援会議	0	6	3	0	9
関係機関	0	1	2	0	3
その他	0	9	7	2	18
合計	38	644	573	53	1,308

※児童の相談件数は0件

②相談内容別

単位：件

	身体障害	重症心身	知的障害	精神障害	合計
福祉サービスの利用	12	385	423	38	858
障害・病状の理解	3	25	33	5	66
健康・医療	4	89	37	4	134
不安解消・情緒安定	0	46	15	0	61
家族関係・人間関係	3	45	28	2	78
家計・経済	15	13	7	2	37
生活技術	1	28	10	1	40
就労	0	2	12	1	15
社会参加・余暇活動	0	2	0	0	2
権利擁護	0	4	7	0	11
その他	0	5	1	0	6
合計	38	644	573	53	1,308

※児童の相談件数は0件

7. 事故・苦情・ヒヤリハット等の状況

(1) 苦情解決システムに基づく対応

施設	苦情内容 (苦情受付経路)	対応結果
あかつき園・ワークセンターささゆり	「新型コロナウイルスへの対応に伴う臨時的な支援」に関して十分な説明を受けていないままに実績票が送付されたことについて (苦情受付担当者)	「新型コロナウイルスへの対応に伴う臨時的な支援」の手続きや入居するグループホーム世話人との情報共有について、管理監督者から苦情申出者に説明し、了承を得た。
	当福祉会からの情報の変遷した結果、新型コロナ陽性者が発生したかのような誤解・不安が生じたことについて (苦情受付担当者)	今回の件を踏まえて、情報の伝え方について、今後活かしていくことについて、管理監督者から苦情申出者に説明し、了承を得た。
地域生活総合支援センター	GHにおける夜間や休日の緊急連絡体制や、救急搬送時の個人医療カードの取り扱いについて (苦情受付担当者)	緊急連絡の方法を再度周知徹底すること、救急搬送の対応策をGH入居者に配布すること等について、管理監督者から苦情申出者に説明し、了承を得た。

(2) 事故・苦情・ヒヤリハットの取りまとめ状況

①事故

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
誤薬・誤飲	地域生活総合支援センター	4件	内容 与薬忘れ、誤薬 原因 確認不足	与薬確認の徹底
合計		4件		

怪我	あかつき園・ワークセンターささゆり	4件	内容 裂傷・打撲・擦過傷 原因 職員の不注意、利用者の状況把握不足、環境不備	安全配慮の徹底 環境整備
	地域生活総合支援センター	3件	内容 打撲、裂傷 原因 環境配慮不足	安全配慮の徹底 環境整備
合計		7件		

内容	部署	件数	主な内容・原因	対応策
他傷行為による怪我	あかつき園・ワークセンターささゆり	18件 (うち職員に対するもの6件)	内容 蹴る・噛む・突き飛ばす 性的な拘り 原因 安全配慮不足 利用者の状態把握不足 障害特性	利用者の心的状態の適切な把握 安全配慮の徹底 環境整備 障害特性に関する支援スキルの向上
	地域生活総合支援センター	1件	内容 打撲 原因 利用者の状態把握不足	安全配慮の徹底 障害特性に応じた環境配慮
合計		19件		

自傷行為による怪我	あかつき園・ワークセンターささゆり	1件	内容 頭突き 原因 利用者の状態把握不足 障害特性	利用者の心的状態の適切な把握 安全配慮の徹底 環境整備 障害特性に関する支援スキルの向上
合計		1件		

無断外出	あかつき園・ワークセンターささゆり	1件	内容 一時的な所外への無断外出 原因 利用者の所在確認不足	安全配慮の徹底 利用者の心的状態の適切な把握
	地域生活総合支援センター	1件	内容 一時的な所外への無断外出 原因 利用者の所在確認不足	利用者の心的状態の適切な把握
合計件数		2件		

車両事故	あかつき園・ワークセンターささゆり	7件	内容 対物接触 原因 確認不足	安全運転の徹底
	ささゆり園	4件 (うち貸館利用者によるもの1件)	内容 対物接触 原因 確認不足	安全運転の徹底
合計件数		11件		

その他	(あかつき園・ワークセンターささゆり)	
	・利用者による非常ベル誤発報	4件
	・送迎車両乗車忘れ	2件
	・給食異物混入	2件
	・てんかん発作に伴う緊急搬送	1件
	(ささゆり園)	
	・注入チューブ装着忘れ	2件
	・給食異物混入	1件
	・酸素ポンベの落下	1件
	(地域生活総合支援センター)	
	・業務失念	1件
	・勤務職員の手配誤り	1件
	・帰宅時の忘れもの	1件

②苦情

部署	件数	内容	原因	解決状況
あかつき園・ワークセンターささゆり	1件	家族からの連絡対応に関するもの	連絡帳の記載見落とし	確認の徹底
ささゆり園	1件	登録職員に関するもの	担当者による説明不足	事前説明の徹底
合計件数	2件			

③ヒヤリハット

部署	件数	内容	
あかつき園・ワークセンター ささゆり	169件	<ul style="list-style-type: none"> * 自傷行為・他傷行為に至る恐れがあった事案 * 器物破損の恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 転倒・転落の恐れがあった事案 * 所在不明に繋がる恐れがあった事案 * 交通事故に繋がる恐れがあった事案 * 服薬忘れに繋がる恐れがあった事案 * 薬の管理方法を見直す必要があった事案 * 異食に繋がる恐れがあった事案 	127件 16件 8件 8件 6件 1件 1件 1件 1件
ささゆり園	74件	<ul style="list-style-type: none"> * 身体症状に影響する恐れがあった事案 * 確認不足により事故等に繋がる恐れがあった事案 * 転倒の恐れがあった事案 * 物品忘れにより事故等に繋がる恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 誤飲・誤食・誤薬に繋がる恐れがあった事案 	27件 17件 13件 7件 7件 3件
地域生活総合支援センター	39件	<ul style="list-style-type: none"> * 利用者に不利益が生じる恐れがあった事案 * 怪我する恐れがあった事案 * 誤薬・服薬忘れに繋がる恐れがあった事案 * 転倒・転落の恐れがあった事案 * 誤飲食に繋がる恐れがあった事案 * 現金帳の金額に誤差が生じる恐れがあった事案 * 利用者の緊急時に対応できない恐れがあった事案 * 所在不明に繋がる恐れがあった事案 * 器物損壊に繋がる恐れがあった事案 * 利用者の持ち物を紛失する恐れがあった事案 	11件 9件 5件 3件 3件 3件 2件 1件 1件 1件
合計件数	282件		

8. 地域参加・交流状況

(1) 納涼祭（主催：あかつき福祉会）

コロナ禍のため中止。

(2) 西南ジャンボリー

（主催：西南ジャンボリー実行委員会、西南小校区青少年を守る会）

コロナ禍のため中止となった。

(3) いきいきふれあい広場（主催：西南小地区福祉会）

コロナ禍のため中止となった。

9. 職員研修実施状況

(1) 法人全体研修

実施日	研修内容	参加者	講師
令和2年4月8日～22日 (3日間)	入職時研修会	10名	当福社会職員
令和2年10月7日～21日 (3日間)	入職時研修会	5名	当福社会職員
令和2年10月9日	摂食・嚥下機能講習会	16名	寺嶋歯科医院
令和2年12月9日～ 令和3年1月29日 (7日間)	虐待防止に関するケーススタディ（令和2年度人権研修）	92名	当福社会職員
	合計	123名	

(2) 事業・施設別外部研修参加状況

部署	令和元年度	令和2年度
法人本部	6名（5件）	5名（5件）
あかつき園・ワークセンターささゆり	27名（17件）	27名（8件）
わんすてっぷ	2名（2件）	0名（0件）
ささゆり園	47名（15件）	29名（8件）
地域生活総合支援センター	11名（8件）	5名（5件）
合計	93名（46件）	66名（26件）

	研修内容
法人本部	「職場体験事業」受入事業者向け研修会、社会福祉法人の決算実務研修会、防災士資格取得講座、第三者評価員養成研修、箕面市人権セミナー
あかつき園・ワークセンターささゆり	障がい等福祉従事者研修、第三号喀痰吸引等研修、サービスマナーセミナー（中級クラス）、若手社員研修、安全運転管理者講習会、相談支援従事者現任研修、サービス管理責任者更新研修、箕面市人権セミナー
ささゆり園	安全運転管理者講習、第三号喀痰吸引等研修、福祉職員研修（初任者）、感染症予防研修、福祉職員研修（OJTリーダー養成）、福祉職員研修（中堅職員）、箕面市人権セミナー、障害者問題市民講座
地域生活総合支援センター	障がい等福祉従事者研修（世話人研修）、感染症・食中毒予防対策講習会、福祉職員研修（OJTリーダー養成）、地域共生社会の実現に向けて～包括的な支援体制の取り組み～、相談支援従事者現任研修

※部門内研修は別途実施。

10. 実習生受入状況

(1) 進路支援に係る実習

施設・事業	実習元	実人数	延べ日数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	1名	5日	支援学校卒業後の進路 先の検討
ささゆり園	箕面支援学校	3名	3日	支援学校卒業後の進路 先の検討
	合 計	4名	8日	

(2) その他

施設・事業	実習元	実人数	延べ日数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	京都産業大学	2名	10日	福祉体験学習
ささゆり園	箕面学園福祉保育 専門学校	1名	1日	介護実習
	合 計	3名	11日	

11. ボランティア受入状況

施設・事業	参加内容	参加回数	延べ参加者
あかつき園・ ワークセンターささゆり	日中活動	4回	5名
ささゆり園	イベント	2回	4名
	合 計	6回	9名

12. 視察・見学状況

(1) 受入状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
あかつき園・ ワークセンター ささゆり	箕面支援学校	10名	卒業後の進路先の検討
	箕面学園	1名	施設見学
	西南小学校（教員）	3名	施設見学
	豊泉家	3名	施設見学
	第三者評価員	5名	施設見学
ささゆり園	箕面支援学校	6名	卒業後の進路先の検討
	音楽療法士	1名	施設見学
	入浴ヘルパー希望者	1名	施設見学
	第三者評価員	5名	施設見学
	寺嶋歯科医院	4名	施設見学
地域生活総合支援 センター	社会福祉法人花ノ木 花ノ木医療福祉センター	3名	日中サービス支援型GH見学
	合 計	42名	

(2) 視察・見学実施状況

施設・事業	視察・見学元	人数	目的
ささゆり園	箕面支援学校	2名	新規利用者情報収集
	寺嶋歯科医院	1名	歯科検診打ち合わせ
	P A S	2名	施設見学
	あいほうぶ吹田	2名	施設見学
	ほうせんか病院	2名	施設見学
	障害者施設あすなろ	2名	施設見学
	豊泉家チャレンジドセンター箕面	2名	施設見学
	大阪刀根山医療センター	1名	医療型短期入所情報収集
地域生活総合支援 センター	(株)Relief corporation	2名	新規開設GH見学
	一般社団法人リスペクト・フロ	2名	新規開設事業所見学
	合 計	18名	

13. 講師派遣状況

派遣先	件名	派遣講師
一般財団法人 大阪府地域福祉推進財団	サービス管理責任者等基礎研修	家村 昇平 濱野 和人
	サービス管理責任者等更新研修	居川 直人 松原 路子

14. 役員名簿（令和3年3月31日現在）

(1) 理事

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
理事長	永田 吉治	箕面地区保護司会	会員	社会福祉事業経営の識見を有する者
理事	石田 良美	社会福祉法人箕面市社会福祉協議会	会長	社会福祉事業経営の識見を有する者
理事	山口 慎太郎	箕面市民生委員児童委員協議会	会長	事業区域の福祉に通じる者
理事	吉田 功	元 箕面市職員		事業区域の福祉に通じる者
理事	村田 尚記	箕面市健康福祉部	副部長	事業区域の福祉に通じる者
理事	福田 寛久	社会福祉法人あかつき福祉会 わんすてっぷ	所長	施設管理者

(2) 監事

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
監事	寺内 勇	社会福祉法人翠明社	監事	社会福祉事業の識見を有する者
監事	大倉 英樹	社会福祉法人慶徳会	事務局長	財務管理の識見を有する者
監事	齋藤 堅造	箕面市会計室	会計管理者	財務管理の識見を有する者

(3) 評議員

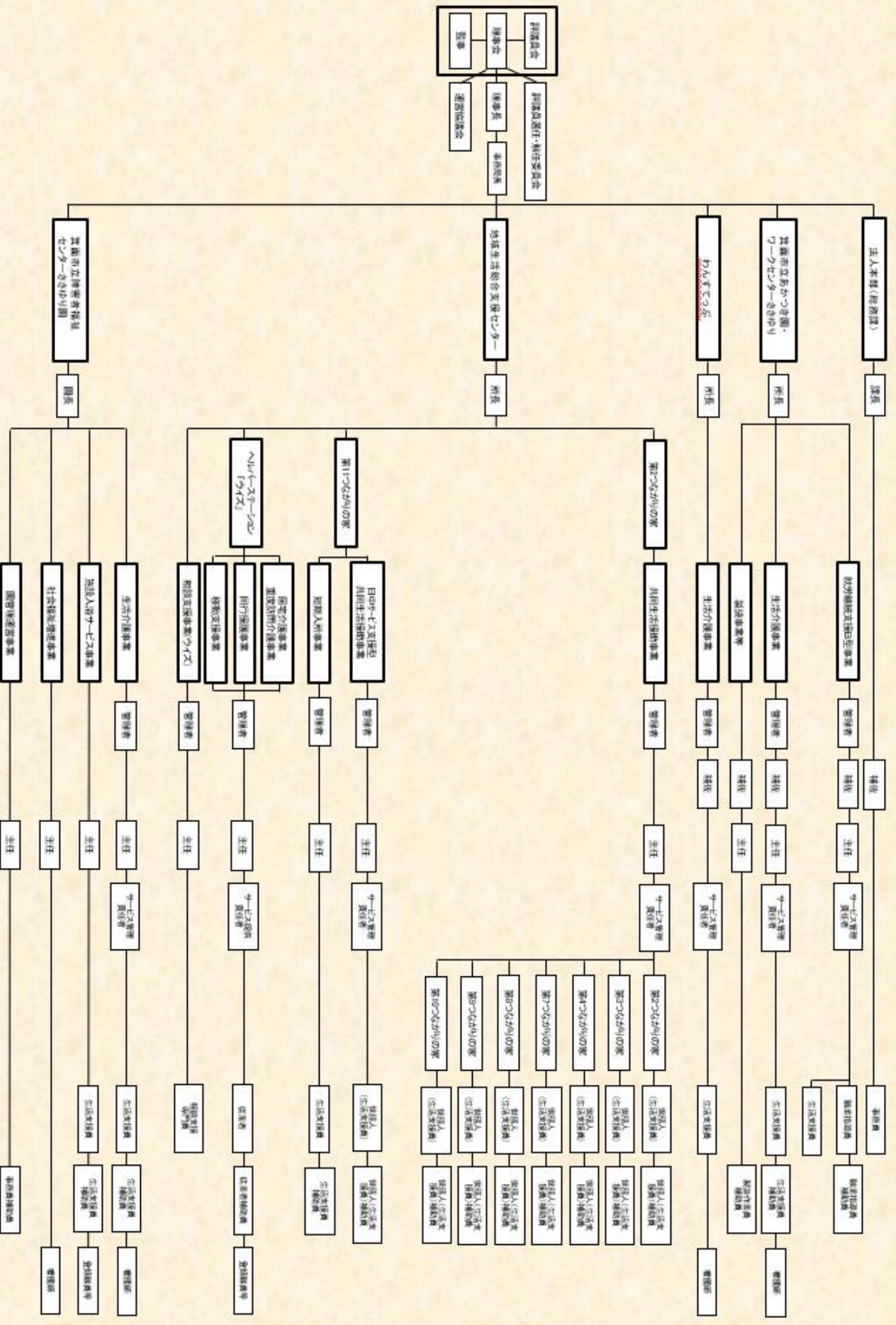
役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員	島谷 都夫	西南小地区福祉会	副会長	地域の福祉関係者
評議員	下司 良一	一般財団法人箕面市障害者事業団	副局長	地域の福祉関係者
評議員	奥田 雅博	社会福祉法人大阪府障害者福祉事業団 明光ワークス	所長	地域の福祉関係者
評議員	植田 恵美子	社会福祉法人息吹	理事長	社会福祉事業の経営者
評議員	亀谷 雅彦	元 社会福祉法人あかつき福祉会 職員		地域の福祉関係者
評議員	木村 知也	箕面ロータリークラブ	プログラム 委員長	地域の福祉関係者
評議員	寛 加代	社会福祉法人あおば福祉会 瀬川保育園	園長	社会福祉事業の経営者
評議員	樫原 淳子	箕面市肢体不自由児者父母の会	書記	地域の福祉関係者

(4) 評議員選任・解任委員会委員

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
評議員 選任・解任 委員会委員	寺内 勇	社会福祉法人翠明社	監事	監事
評議員 選任・解任 委員会委員	東 有希子	社会福祉法人あかつき福祉会 箕面市立あかつき園・ワークセンターさ さゆり、地域生活総合支援センター	所長	事務局員
評議員 選任・解任 委員会委員	多田 育雄	元 NPO法人監事		外部委員

(5) 運営協議会委員

役職	氏名	団体・職業等	役職名等	区分
運営協議 会委員	名淵 須和子	箕面手をつなぐ親の会	副会長	理事長が適当と認める者
運営協議 会委員	羽藤 隆	箕面市身体障害者福祉会	副会長	理事長が適当と認める者
運営協議 会委員	日根 真理	箕面市西南小校区青少年を守る会	幹事	地域の代表者
運営協議 会委員	平安 幸子	日本赤十字奉仕団（箕面）	団員	地域の代表者



16. 令和2(2020)年度職員内訳

令和3年3月31日現在

部 署	正規職員	支援職員	臨時職員	合 計
法人本部	2名	3名	1名	6名
あかつき園・ワークセンターささゆり	9名	18名	29名	56名
わんすてっぷ	1名	2名	2名	5名
障害者福祉センターささゆり園	2名	9名	14名	25名
地域生活総合支援センター	4名	15名	11名	30名
合 計	18名	47名	57名	122名

注) 臨時職員数には、送迎バス添乗等の短時間勤務職員を含み、派遣職員は含まない。
その他、登録職員24名(実質稼働者数)